

じねん
自然の
こころ

総会特集号

09

2022.8

「残暑お見舞い申し上げます」



(太陽の家)

「自然」とは 全世界 全宇宙の万物はまさに「自ずから然るべく」存在し動き流れているという思想です。自然流の会はその「自ずから然るべくあるがままに」という概念を、日々の生き方、暮らし方の規範として捉え、その生活活動を支える会です。

目次

- 2022 年度 第14 回 自然流の会 年次総会のご報告
- 自然流の会勉強会 「自然流健康の家とは？」 開催のお知らせ
- 年次総会 記念講演会 報告
「マイクロプラスチックってなに？～マイクロプラスチックが人に与える脅威～」
- 小林相談役よりおたより 「太陽の家 建設の経緯」をふりかえって
- 編集後記



『2022 年度 第 14 回 年次総会』ご報告

「第 14 回年次総会」を 2022 年 5 月 28 日(土)15 時 15 分より開催いたしました。今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策といたしまして、会員のみなさまにはご出席方法をお選びいただき、会場(株)小林住宅工業モデルハウス)または ZOOM(web 会議システム)にてご参加いただきました。



(写真上：高田秀重先生とご一緒に)



おかげさまで、会員36名のうち、出席：7名、決議書：20 通(総計 27 名)にて、過半数を超え、総会の決議は成立し、各議案(1号～4号)すべて議案通り、可決されました。

また、総会後は、高田秀重先生(東京農工大学農学部教授)をお迎えし、特別講演会「マイクロプラスチックってなに？～マイクロプラスチックが人に与える脅威～」を開催いたしました。

まだまだ収束の兆しが見えないコロナ禍で、どのように「会の活動」を進めていくか、模索中な部分も多くありますが、本年度は、①HP の充実 ②会報の定期発行 ③オンラインを用いての講座・講演会開催 など、行っています。みなさまのご理解、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。なお、ご不明点、ご質問などございましたら、事務局までご連絡ください。

自然流の会 2022 年度 第 1 回 勉強会

「自然流健康の家づくりとは？(仮題)」

- 日時：2022 年 10 月 1 日(土) 15:00～17:30
- 会場：(株)小林住宅工業モデルハウスまたはオンライン(ZOOM)
- 参加費： 会員 無料 ・ 一般 1,000 円
- 講師：柳澤 泰博氏(槐建築設計事務所代表・自然流の会理事長)
真鍋 淳弘氏(株)山長商店・自然流の会会員)
- お申込み方法：WEB 申込み・FAX・郵送にて ※勉強会詳細は、同封のチラシをご覧ください！

「マイクロプラスチックってなに？」 ～マイクロプラスチックが人に与える脅威～

東京農工大学 農学部教授
高田 秀重 氏

5月28日(土)東京農工大農学部教授 高田秀重さんをお迎えして「マイクロプラスチックってなに？～マイクロプラスチックが人に与える脅威～」と題して講演が開催されました。会場とWeb合わせて36名の参加者がありました。

私たちの日々の生活に切っても切れないプラスチック製品や化学繊維。気が付けば多くの日用品が石油由来の化学物質であふれています。さてその影響は？



(写真：高田秀重先生)

・マイクロプラスチックってなに？

プラスチックごみの流出は全世界に広がっています。

クジラ、ウミガメ、海鳥など動物がそうしたごみを捕食して命を落とす事例は大きく報じられています。その海や山など自然界に放置されたプラスチックごみが、紫外線や波などの影響により細分化され5mm以下となったプラスチックをマイクロプラスチックといい、全世界の海や陸地に広がっているということです。

・マイクロプラスチックの脅威

そうした微細なプラスチックごみがなぜ問題なのか。マイクロプラスチックにはもともとプラスチック製品に含まれている添加剤が残留しています。添加剤には多くの種類があり、中には有害な化学物質もあります。また、マイクロプラスチックは海水中に溶けている有害化学物質と結びつき貝や小魚など小動物に捕食されます。

固体のマイクロプラスチック自体は排出されても、有害化学物質の一部は体内に取り込まれ蓄積されていきます。その小魚などを大きな魚やクジラなどが捕食し、そうした食物連鎖により有害化学物質が蓄積された魚を人間も食べることで汚染されていくということです。



(写真：マイクロプラスチックを食べた鳥)

・環境ホルモン(内分泌攪乱物質)

その有害化学物質とは、生命体に大きな影響を与えることが分かっている環境ホルモンで、ほとんどのプラスチック製品には、精製過程でそうした環境ホルモンを含む可塑剤、難燃剤などの添加剤が使われています。つまりプラスチックを使う限り、そうした環境ホルモンを人体に取り込んでしまうことは避けられないということです。

・プラスチックごみの処理

日本ではプラスチックごみを資源回収など行っていますが、ごみとして回収されたプラスチックの 70%は焼却されており、結局温暖化ガスの排出となり温暖化の一要因になっているということで、石油由来のプラスチックはその製造過程でもエネルギーを使い、処分にもエネルギーを使い二酸化炭素を排出し、結局地球温暖化に拍車をかけることになります。



・日常の意外なプラスチック

アクリルなどの化学繊維衣料品は洗濯によって繊維が汚れとともに落ち、結果微細なマイクロプラスチックとなり下水放流により流出していきます。また液体洗剤や芳香剤、柔軟剤などにも添加剤が含まれており、同じように流れ出ています。そうしたマイクロプラスチックや環境ホルモンを含む添加剤は回収しきれずに自然界にどんどん排出されているということです。

・私たちにできること

今回の講演により、私たちの体に影響を与えるマイクロプラスチックの脅威と、待ったなしのプラスチック対策、そしてこれからの私たちの生活の価値観を根本的に変える必要があるということを学びました。

こうした状況を踏まえて私たちはどうすればよいのでしょうか？

まずは一人一人が身の回りを見回して、生活の中に入り込んでいるプラスチック(包装用、ペットボトル、使い捨て食器、個別包装、etc)や化学繊維も含めて石油由来のプラスチック類や添加物を含んだ日用品を、日々の生活で使わないようにする、少なくするよう心掛けることが大切だということです。そしてすでに捨てられているプラスチックは、マイクロプラスチックになってしまうとその回収は非常に難しくなるので、プラスチックごみの段階で回収することだそうです。

・建築を造る上で心掛けることは？

環境や人に悪影響を与える接着剤、添加剤など化学物質を含む、合板やビニールクロス、プラスチック系断熱材などの新建材を使わないことです。そうした新建材は製造過程でも現場廃材としてもプラスチックを排出することになります。

それでは新建材を使わずにどのように造るか？



木、土、紙、草など自然循環型の自然素材で、これまで培ってきた先人たちの知恵を借りながら、省エネルギーなど現在の技術を取り入れて造ることです。こうした基本的な姿勢が自然環境にとっても社会にとってもとても大切なことだと思います。その上で自然災害や時間の経過に耐える堅牢性、耐久性を持ち、時間的変化にも応えられる柔軟性と融通性を持つことにより、スクラップアンドビルドにしない永く使える建物にすることが求められています。



高田先生監修本

「プラスチックモンスターをやっつけよう！」

・お問合せ:自然流の事務局、または
クレヨンハウス
(TEL03-3406-6372)

プラスチックモンスターをやっつけよう！

きみが地球のためにできること



クリハラタカシ/絵
クレヨンハウス編集部/編
本体1,600円+税



絵本感覚で読める本書は、おとなの入門書にも最適です。プラスチックを「モンスター」に擬すことで、その危険性をわかりやすくし、プラスチックを減らす生活、活動ができるよう、さまざまな方法を紹介しています。

小林康雄相談役からのお便り「太陽の家 ものがたり」



こんにちは、今日は岐阜県高山市・自然体験施設・「太陽の家」(築 15 年、平成 13 年着工)を皆様にもっと知っていただきたいと考えて建設されたいきさつや経緯を文章にして簡単にお伝えさせていただきたいと思います。

「太陽の家」は「岐阜県高山市丹生川町旗鉾字月出 249-5」に、(株)小林住宅工業が建設した施設の名称になります。



松本城で名を知られた信州の松本市と古い町並みが世界遺産にも登録された岐阜県高山市を結ぶ国道158号線沿い。奥飛騨温泉郷の平湯温泉と高山のちょうど中間あたりに位置しており、中部山岳国立公園の霊峰乗鞍連峰を間近に望み、乗鞍原生林探索ルートの入り口にもなる、大変風光明媚な地形に存在します。

高山市街地から上がってくると標高約1000m、この辺から気候が一気に厳しくなり冬の気温は零下 20 度以下にも下がり、雪の多い年には2mも積雪があり家が埋まる位の豪雪地帯でもあります。しかし五月の連休明けあたりから一気に春の訪れを迎え、すべての花々が(桜も梅も桃も杏も)いっせいに開花し私たちを温かく迎えてくれる季節となります。



又この村落には乗鞍信仰の一部として天孫降臨の神話の里としての伝説も残り、縄文時代の遺跡も数多く出土しており古代から人の暮らしがしやすい土地でもあったようです。そのような土地の旧家に何のご縁か私どもの次女が嫁ぐことに成り、遠隔の地ではありましたが、横浜とこの地を結び何か皆様のお役に立つことは出来ないか、と考えた末「太陽の家」建設に至りました。

実証実験の問題

建築人の一人として、関東地域という比較的温暖な地に、(株)小林住宅工業が建設している「自然流健康の家」仕様が、「寒冷地域でも最低限の暖房器具で十分に対応できる」という事実を、現実「目に見える形」に実証したかった事もあります。

健体康心の問題

健全な身体を育成するには自然との接触、更に人が元気に暮らしていくということの中で、笑顔が大きな要素であり、衣食住の良し悪しはもちろんのこと、心の持ち方や考え方が健康か不健康になるかの分かれ道にも直結していることを学び、住宅建設に取り組む私たちとしては住の改善に多くの要因を見出しました。

シックハウスの問題

住空間が健康を生み出す場でなくてはならない。一暮らしの場であり、憩いの場であるべき住まいが不健康の要因を作り出すことはあってはならないことなのです。



→裏面に続く

建築の条件 としては おおまかに

1. 寒冷地仕様を基本として100%自然素材であること。
2. 地産地消、周辺の山で育った樹木を基本構造材に使用すること。
3. 寒冷地に充分対応できる構造であり、断熱仕様であること。
4. 最低でも 100 年は存在し建築文化の一端を
三世代に受け継ぎ可能な建築物であること。

等々を建設のイメージとしております。



(写真:「太陽の家」芍薬)

使用目的 としては

1. ㈱小林住宅工業の社員、および、協力業者向け農業体験研修宿泊所
2. お客様や社員業者の各種研修旅行の中継宿泊所及び「自然流健康の家」体験宿泊所
3. 地域住民との交流の場
4. 限界集落の道をたどる地域の中で、放棄農地を活かし広く希望者を募り、農業を通して食の安心安全を実現し、都市との交流を図り地域の復活生き残りを実現できないものか、という希望願望も含んでいます。

「太陽の家」は、木材をふんだんに使用して笑顔の建築人としての夢を建築物と言う形に表したものです。この先住宅建設を検討されている方々には是非とも訪れてみていただきたい体験施設であります。

自然流の会 HP とメールアドレスが新しくなりました！



<https://www.jinenryu.net>

メール: info@jinenryu.net



各種お問合せなどは、新メールアドレスにお願いします。

編集後記

「2021 年度自然流の会年次総会」も無事終わり新年度が始まりました。
終息かと思われた「コロナ」はまたもや拡大に転じ、ウクライナ情勢は解決の兆しが見えません。
そして自然も又人間の横暴を怒るかのよう豪雨や炎暑の被害を引き起こしています。

この度ご講演頂いた 高田先生の「マイクロプラスチック」の恐怖は人類の存亡にもかかわる大問題であり、真摯に受け止め対策が急がれます。

「自ずから然るべくあるがままに」という自然流の理念こそ諸問題の解決の糸口と思います。
この理念のもとこれからも「自然のこころ」をお届けしていきたいと思います。(佐原榮子)

